

## 第1回障害者団体等就労支援交流会

- 1 主 催 京都市障害者就労支援推進会議  
(事務局：京都市保健福祉局保健福祉部障害保健福祉課)
- 2 日 時 平成21年10月2日(金)午後6時30分～
- 3 場 所 キャンパスプラザ京都 2階 第1会議室
- 4 次 第
  - (1) 開 会
  - (2) 主催者挨拶
  - (3) 趣旨説明
    - 京都市障害者就労支援推進会議について
    - 障害者団体等就労支援交流会について
  - (4) 交 流 会 (自己紹介を含む)
    - 障害のある市民の就労支援について
  - (5) そ の 他
  - (6) 閉 会

京都市障害者就労支援推進会議 第1回障害者団体等就労支援交流会

出席者名簿

当 事 者 団 体 名	出 席 者
社団法人 京都市身体障害者団体連合会	田尻 彰
特定非営利活動法人 京都市肢体障害者協会	日野 勝 小坂 瑞恵
社団法人 京都府視覚障害者協会	糸数 三男 高間 恵子
京都市聴覚障害者協会	高山 正紀 松本 英樹
特定非営利活動法人 京都市中途失聴・難聴者協会	—
京都腎臓病患者協議会	池田 純一
京都障害児者親の会協議会	磯貝 英雄
社団法人 京都市身体障害児者父母の会連合会	—
社団法人 京都手をつなぐ育成会	岩井 光男
社団法人 日本筋ジストロフィー協会京都支部	藤井 康久
京都府自閉症協会	—
心臓病の子供を守る京都父母の会	—
社団法人 京都精神保健福祉推進家族会連合会	—
京都LD等親の会「たんぼぼ」	山本 保子 永井 千恵美
京都ADHD親の会クローバー	木村 厚美 渡口 典子
ONLY ONEの会	中川 徳子 和田 裕子
京都喉友会	野村 利夫
社団法人日本オストミー協会京都府支部	—
特定非営利活動法人 京都頸髄損傷者連絡会	古屋 祥宏 木村 善男
京都脳性マヒ協会	—
京都市立総合支援学校PTA連絡協議会	溜池 律子
京都ユーザーネットワーク	—
頭部外傷や病気による後遺症を持つ若者と家族の会京都支部	出口 栄二
京都難病団体連絡協議会	—
所 属	出 席 者
京都市障害者就労支援推進会議	加藤 博史

(順不同, 敬称略)



## 第1回障害者団体等就労支援交流会 アンケート 集約結果（まとめ）

1 障害のある市民の就労支援について、具体的にどのようなことを話し合いたいですか？

- ・ 障害種別の就労実態の状況
- ・ 障害種別の就労実態の状況に差が発生している場合の原因及び解決策
- ・ 就労後にどんな問題に直面するのか。
- ・ 就労支援を促進するため、各団体との情報の共有化，ネットワーク化
  - －就労先の情報，就労希望者のスキル情報，得意分野の委託訓練など
- ・ 就労支援の成功事例の横展開のための具体的な方策
  - －特例子会社設立の支援や労務管理に関する支援策
- ・ 重度の障害者の就労支援のあり方
- ・ 人材のマッチング
  - －企業が求めるスキルと本人が持っている資質のすり合わせをどのように行うか…人材バンク的な発想
- ・ 事業主がどのように考えているか。またどのような取組をしているか。
- ・ 発達障害への理解が社会的にまだまだ不十分なため，理解を支援につなげるための方策
- ・ 障害認定が受けられない難病，内部障害を持つ人の理解促進と支援策

2 障害のある市民の就労を考えると、何が大切であると考えますか？

- ・ それぞれの障害の内容や程度に即した職業・職場のあっせん紹介から，就労定着までの継続した支援体制
- ・ 障害特性について把握している専門機関との連携をとること
- ・ 就労後の状況の把握と，事業所からの相談に応じる体制の確立
- ・ 職場で周りの人とうまく人間関係を作れず，悩みがあるときに相談できる環境
- ・ 障害の程度や能力の程度にかかわらず，働く意欲のある障害者が誰でも就労できる職場づくりや，サポーター体制を作り上げること
- ・ 知的障害者の特性からグループ就労ができるような職場環境の整備
- ・ 気軽に挑戦できるように，離職のときの受皿システムの整備
- ・ 健常者の集団で仲良くやっていける性格
- ・ 障害理解とサポート（発達障害は外見から分からない。集団の中で少しずつ特性が明らかになってくる。本人の努力の問題とされ，障害として理解されにくい。）
- ・ 本人の就労意欲と周りの人の理解と協力（特に勤務先）
- ・ 多くの難病患者や障害者は働きたいと願っていることへの理解

3 当事者又は当事者の家族として、就労の場面において周囲の方等に伝えたいこと・希望することは何ですか？

- ・ 何ができて、何ができないのかの科学的な認定方法の確立
- ・ 障害特性等に関する理解を得るための場の確保とその支援体制
- ・ コミュニケーション上のサポートが受けられるかどうか。
- ・ 就労上の心構え
- ・ 情報共有に向けた自発的姿勢の取組
- ・ 障害特性を個々に理解していただき、特性に応じた仕事の与え方や労務管理を実施してほしい。
- ・ 企業は障害者雇用を経済的なメリット・デメリットで判断することなく、企業の福祉に対する社会的な貢献という見地から、雇用拡大を図ってほしい。
- ・ 障害者が一般企業で健常者の中でマイノリティとして働くには大きなプレッシャーがある。できれば障害者雇用を目的とした福祉工場的な職場の創出を望む。
- ・ 学校を通して働くのに何が必要か教えてほしい。
- ・ 学齢期で手立ての薄かった青年達は周囲の想像以上に自己評価を下げており、何事にもできて当たり前ではなく、丁寧に彼らの努力を評価し、認め、フィードバックしてほしい。
- ・ 障害の内容と就労の時の問題点と協力
- ・ 難病（病気）への理解を深めてほしい。